

感動の場

『^{ふんぬ}忿怒学入門事始め』
1986 年 小川原 脩 画

小川原脩がチベットに題材を得て描いた作品の中には、たびたび、この「^{ふんぬ}忿怒」のお面が登場します。鬼の形相にも見えますが、これは「チャム面」と呼ばれるものです。

チベット語で「跳」あるいは「舞」の意味を持つ「チャム」は、各地の仏教寺院が祭礼として行う独特な宗教舞踊です。一斉に響き渡るラッパ、打ち鳴らされる太鼓やシンバルの音の中、仮面をかぶった僧侶たちが神々や神獣に扮装して登場し、楽器の演奏に合わせて飛び踊り、悪鬼の駆逐や仏教故事などを演じます。

1983 年、小川原がインドの西チベット・ラダックを訪れた際には、護法神や忿怒神の仮面、チティパティという^{どくろ}髑髏、鹿頭といったチャム面をスケッチしました。「おどろおどろしい忿怒面が行く先々のゴンパ（チベット仏教の寺院）にたくさんあった」「忿怒面は恐ろしいと思ったのだが、だがしかしユーモアいっぱいの表情でもある」と小川原はそれらを描いた作品について記しています。

小川原脩がこの仮面を作品に登場させたのは、1986 年頃から。ラダックへの旅から 3 年が経っていました。
文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）



ふる探訪

466 回

ニセコエリアの移り変わりと課題

今年は、レルヒ中佐によって町内にスキーが伝えられてから 110 年、町が日本初の「スキーの町宣言」を出してから 50 年の記念すべき年です。いまや倶知安・ニセコは「世界の Niseko」として国際リゾート地に発展しましたが、その最初のきっかけは、1961（昭和 36）年 12 月 17 日のヒラフスキー場リフトの誕生でした。

それまでニセコエリアのスキーは山スキーでしたが、リフトの誕生によりゲレンデスキーが中心となり、全日本スキー大会や 2 度の国民体育大会の開催が、倶知安・ヒラフ・ニセコの名前を全国に広め、スキー人気は 1980 年代後半から 1990 年代初期のバブル期に頂点を迎えます。ホテルも年末年始や連休などはシーズン前に予約が埋まり、航空会社が売り出す北海道スキーツアーは発売日に即日完売になったと言われていましたが、1991（平成 3）年のバブル経済崩壊の影響によりスキーブームも終焉を迎えます。

このような状況で、ニセコエリアの価値の再発見を行ったのがオーストラリアの人びとでした。2000 年代以降、彼らの尽力もあり、ニセコエリアのパウダースノーはその雪質の良さによって海外から再び脚光を浴びることになります。現在では世界各国の資本による開発・投資が進み、「世界の Niseko」というブランドが高まった一方、急激な開発は自然環境や景観に悪影響を与えるのではないかという新たな問題も発生してきています。

ニセコエリアの豊かで美しい自然を、未来に生きる子どもたちへ引き継ぐためにも、自然環境の保全と開発とのバランスという難しい問題に、地域全体で取り組まなければなりません。

文：林 伸也（倶知安風土館 学芸補助員）



ヒラフスキー場リフト開業当時
1961（昭和 36）年

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

小川原脩展「遙かなるイマージュ」

常に新たな芸術と社会のさまざまな潮流を感じ取りつつ、〈個〉としての自らの創作姿勢を貫いた画家・小川原脩の、70 年におよぶ画業をたどる展覧会です。

会 期：開催中～5 月 15 日(日)

■第 2 展示室

小川原脩・谷口一芳 二人展「仲間たちへのオマージュ」

会 期：開催中～2 月 13 日(日)

^{わたらいじゅんすけ}渡会純 价展 音楽がつむぐ わたしの世界ー坂井コレクションより

小樽市出身、札幌で活躍する版画家・渡会純价さん。爽やかな色彩や音楽性に富んだ作品は多くのファンに親しまれ、そのうちの一人、倶知安にギャラリーを構える坂井和子さんのコレクションの中からご紹介します。また小川原脩との深い絆が表れる全道展 70 周年記念展のために制作された「全道展を創ったつわもの達」（北海道新聞社蔵）も展示します。

会 期：2 月 19 日(土)～4 月 17 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ミュージアム・コンサート

「アフタヌーン・ジャズ・ライブ」

日時：2 月 26 日(土) 14 時～15 時 会場：当館ロビー（無料）

出演：「白木茂トリオ」白木茂さん（ピアノ）・菅原易さん（ベース）・福田浩平さん（ドラム）

定員：50 名（要予約） 予約受付：2 月 10 日(木) 9 時から電話申込
4 ビートのヒットナンバーに加え、バラードやボサノバまで織り込んだジャズのスタンダードナンバーが勢ぞろい。さらには現在テレビで話題を集めるヒットソングも用意しました。倶知安発のグループ「白木茂トリオ」がお届けします。

■ギャラリー・トーク

「渡会純价の世界」

日時：2 月 19 日(土) 14 時～14 時 30 分 会場：第 2 展示室（無料）

お話：沼田 絵美（学芸員）

北海道版画界の草分け、そして 80 代半ばの現在も全道展の中核として活躍する渡会純价さん。その軽やかな描線と柔らかな色彩に彩られた作品を、展覧会場で学芸員とともに鑑賞しましょう。

■土曜サロン

おとなの手しごと (9) 「白ペン×黒紙でお絵描き」

日時：2 月 5 日(土) 14 時～16 時 会場：当館ロビー（無料）

お相手：沼田 絵美（学芸員） 定員：10 名（要予約）

白いペンで黒い画用紙に線や点を描いていくと… おしゃれなアートを楽しみましょう。

世界のグレートアーティスト (20) 「エーゲ海 島々のギリシャ」

日時：2 月 12 日(土) 14 時～15 時 会場：映像ルーム（無料） お話：柴 勤（館長）

■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち②①・②②」

日時：②① 2 月 11 日(金) ②② 2 月 25 日(金) 各 18 時～19 時

会場：映像ルーム（無料） お話：柴 勤（館長） 定員：5 名程度（要予約）

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観 覧 料：一 般 500 円（400 円）

高 校 生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観 覧 料：一 般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

2 月の休館日 毎週火曜日、

美術館：14～18 日

（展示替えのため）

美術館の名前は大事です

先日、久しぶりに「市立小樽美術館」へ行ってきました。一原有徳や中村善作という個性的で対照的な画家の常設展示室を併せ持つ、私の大好きな美術館の一つです。

さて、この美術館の名前の由来について、面白い話を聞いたことがあります。計画当初は「小樽市立美術館」という案もあったそうですが、現場では「市立」の位置にこだわりました。つまり、あくまで「市立小樽美術館」にと。それにより、小樽という地域に根差した美術館ということを強調したかったのです。この話をしてくれた前の館長さんは、そこからさらに一原や中村のように日本へ、世界へ向けて発信するのだと目を輝かせていたものです。

館 長 ^{しば}柴 ^{つとむ}勤